

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能事業所 ぐりーん		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 19日		2025年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 14日		2025年 11月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 2人
○訪問先施設評価実施期間	2025年 11月 20日		2025年 12月 17日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先の施設の先生と連携ができています。	訪問後に、お話をする時間を必ず設けて頂いています。施設の先生の配慮により、担任の先生に加え、必要であれば加配の先生や園長先生も参加して頂いています。園全体で支援して頂くことで、普段の生活に反映されやすいように感じます。	必要なタイミング(行事・クラス替えなど)で支援に入れるように日ごろから施設の先生方やご家族と情報共有を強化してまいります。専門性のある支援が継続できるように、児発管と訪問員での話し合いの他に専門職への相談も積極的に行ってまいります。
2	同じ施設で同じ職員が行うため、一貫した支援を受けることができる。	現在、保育所等訪問支援を受けている方のほとんどがぐりーんの児童発達支援事業や放課後デイサービスを利用されている方です。そのため、訪問と並行してぐりーん来所時に評価や練習をすることができています。先にぐりーんで練習した状態で、訪問先で開始するため利用児も自信を持って取り組み成功することが多いです。	訪問先のニーズに合わせて、ぐりーんで取り組める課題や環境設定を増やしていきます。また、訪問先の先生方が実践しやすいような工夫をさらにしていきたいと思えます。ご家族・先生方と相談をしブラッシュアップしていきたいと思えます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問員の人数が少なく、日程や回数の調整が難しいときがある。	専門職が訪問員として支援をしているため、訪問員が少ない。また、訪問員が非常勤職員で児童発達支援事業も兼務しているため受けられる件数も限られてしまう。	今後、訪問員を増やし、必要な時に保育所等訪問支援を行えるようにしていきたいです。研修等を行い、支援技術やアドバイスができるようにしていきます。また、現在も目標が達成したら一旦終了としているため、必要時にすぐに対応できる工夫をしています。
2			
3			